

埼玉県立

# 小児医療センター だより

## ●埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

Tel ▶ 048-758-1811 Fax ▶ 048-758-1818 E-mail ▶ n581811@pref.saitama.lg.jp

URL ▶ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/q04/>

副病院長あいさつ

## 新病院へ向けて

副病院長 小川 潔



4月から副病院長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。

既にご承知のことと存じますが、4月16日の臨時県議会において小児医療センター新病院建設費の総額を約55億円増額する補正予算が可決されました。いよいよ建設工事も本格化し、平成28年度中の開院に向けて準備を加速させているところです。新病院ではさいたま赤十字病院と一体となった総合周産期母子医療センターの設置、小児救急部門の充実とPICUの整備、小児がん拠点病院としての機能の充実などが計画されています。

良い病院を作るために重要なのは「人」と「カネ」であります。第一に、いかに良い人材を集めれるか、育てるかが問題です。開院までに少しずつ集めていかなければなりません。幸い新病院は大宮駅からほど近いという立地に恵まれていますし、大規模なPICUやNICUができますので多くの人材が集められるのではないかと期待しています。当センターは小児病院の中で初期臨床研修を行っている数少ない病院ですが、内科や外科は他施設にお願いしなければならず、5年連続応募者なしの状況となっています。一方で、日赤の小児科病棟が閉鎖に追い込まれたために、2年前から日赤の初期研修のお手伝いをしています。幸い、研修医の評判は上々です。日赤と小児病院が連携して臨床研修を行えば、さらに多くの医師が集められると考えております。

新病院ではNICUの増床が予定されており、多くの看護師を集めなければなりません。今年度から増員に向けて準備が始まっています。7対1病床の増加により看護師不足は深刻になっております。平成26年4月の診療報酬改定で7対1病床の資格条件が厳格化され、今後2年間で7対1病床の4分の1に当たる9万床が削減されるようです。看護師の採用環境が少しずつ改善してくることを期待しています。

「カネ」を確保することは非常に厳しい状況にあります。建設費が高騰し、不況のさなかに建設されたがんセンターの2倍以上の費用が費やされることになり、建設費の剩余金が期待できません。DPCの関係から昨年9月に電子カルテシステムを導入いたしましたが、PICU/HCU、NICUにおける重症系対応のシステムや画像一元管理システムなどは新病院に移転した時に導入の予定でした。こうした積み残しの電子カルテの部門システムが高額になっております。当センターが開院した30数年前にはCTscanや血管造影装置などが最も高額な備品でしたが、今や電子カルテシステムが最も高額で、複雑になっています。現在、導入すべき電子カルテシステムの仕様書作成、高額備品リストの作成に追われています。

さらに跡地にどのような機能を作るのか、新病院の運用面の問題など解決すべき問題は山積しています。日々の診療のレベルを落とさずに準備を進めたいと考えておりますので、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 埼玉県立小児医療センターだより 第4号 ご案内

- |                               |                                   |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| ○ 副病院長あいさつ 小川 潔 .....p.1      | ○ お知らせ .....p.6                   |
| ○ 部門紹介 代謝・内分泌科、心臓血管外科...p.2~3 | ○ はじめて当センターを受診される方へ・アクセス .....p.6 |
| ○ 部門紹介 外来・救急、栄養部 .....p.4~5   |                                   |

## &lt;部門紹介&gt;

## 代謝・内分泌科

代謝・内分泌科 もち づき ひろし  
望月 弘

代謝・内分泌科では、主にホルモンの異常および先天代謝異常による病気を診療しています。具体的に当科で診ている病気には次のようなものがあります。成長ホルモン分泌不全性低身長症、ターナー症候群、肥満、思春期早発症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、軟骨無形成症などの骨系統疾患、尿崩症、糖尿病（1型、2型）、先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎過形成症、フェニールケトン尿症、などです。また、当科を受診するきっかけとして多いものには、身長の伸びが悪い、身長の伸びがよすぎる、体重が増えない、太りすぎている、思春期が早い（女の子で小さい頃から胸がふくらむなど）、甲状腺が腫れている、生まれてすぐの検査で異常があると言われた、などがあります。これらのことと心配なことがありましたら、近所の先生とご相談のうえ、ぜひ当科を受診してみてください。

1年間に当科を受診される患者さんは、初診の方が470名ほど、再診の方が延べ9,700名ほどになります。現在我々が診させていただいている患者さんの数はおそらく全国の小児病院のなかでも上位3位に入る数と思われます。代謝内分泌の質の良い診療には経験が欠かせないとされています。このような貴重な診療経験を生かして、さらによりよい診療を心がけていきたいと思っております。

近年、医療の進歩はめざましく、当科でも下記のような新しい治療を行っています。

1. 骨系統疾患に対する内科的治療
2. 1型糖尿病に対するインスリン・ポンプ治療
3. 先天代謝疾患に対する酵素補充療法

このうち、1と2について簡単にご紹介いたします。

1. 骨の病気に対して、以前は主に骨折や変形に対する治療のみが行われてきました。近年、骨の病気の一部で内科的治療が可能となってきております。そのひとつに軟骨無・低形成症の低身長に対する成長ホルモン治療があります。当科では現在までに約50名の軟骨無・低形成症の患者さんにこの治療を行い、多少の個人差はあるものの有効な身長増加が得られています。

もう一つは骨折しやすい病気である骨形成不全症に対するビスフォスフォネート点滴治療です。治療効果は劇的で、骨折頻度が著明に減少し、歩行が可能になっている患者さんもいるほどです。現在までに約20名の患者さんにこの治療を行っています。



2. 1型糖尿病の治療にインスリン治療は欠かせません。しかし、今までには、1日に4回程度のインスリン注射が必要でした。その注射をしなくて済むように開発されたのが、インスリン・ポンプ治療です。皮膚の下にプラスチックの針をずっと入れておいて、携帯型の小さな機械を用いて持続的にインスリンを注入する方法です。針は3日に1回ほど交換いたします。特に乳幼児では有用な方法とされています。当科でも積極的に取り組んでおり、現在12名の患者さんを行っています。

現在当科では写真の4名で診療に全力で取り組んでいます。今後とも代謝・内分泌科をご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 心臓血管外科

心臓血管外科 の むら こう じ  
野 村 耕 司

心臓血管外科では心臓病を持つお子様に対して手術を行うことで救命はもとより健やかな成長と快適な生活をくれることを目指して治療を行っています。子供の心臓病の中には生まれてすぐに手術が必要になる重症疾患から、比較的症状や負担が軽く学童期まで待機できる疾患まで様々です。また同じ疾患でも形や負担に差があって重症度が異なるために手術の方法や時期も変ってきます。このような心臓病に対して私ども心臓血管外科は循環器内科、麻酔科、看護師、臨床工学士を中心としたチーム連携を密に年間約120例の手術を行っております。当科では常に安全性を考慮した手術成績の向上をモットーとしており、数年前までは救命困難と考えられていた特別な心臓病のお子様も含めて多くの子供たちが安全に手術を受けていただけるようになりました。手術中に用いる人工心肺手術中の血液透析の併用や肺高血圧症例に対する肺保護など、



手術法だけでなく術後の負担軽減を見据えた補助手段の改良にも日々取り組んでおります。6年前から導入した術中食道エコーも安全性と確実性の向上に寄与しております。手術中の心臓の動きや弁機能、修復精度を確認でき、治療効果の確認や効率的な循環管理に役立っております。低侵襲心臓手術や無輸血開心術を積極的に導入し、チームの技術の向上と患者さんの術後の早期回復早期離床に努めています。

また特定の疾患に対しては従来の手術以外に、循環器内科医によるカテーテル治療を行っております。心房中隔欠損症や動脈管開存症が対象になり、手術治療に比べて傷がなく侵襲も遙かに小さい治療です。ここでも安全性を最優先に形態や大きさに応じて適応を決めており導入後8年間、心房中隔欠損症は80例を越えましたが合併症なく経過しております。

様々な診療技術の向上によって以前は困難であった新生児の赤ちゃんに対する手術成績も安定してきましたが、依然として救命が難しい病気も存在します。そのような重症心疾患を胎児の段階で発見して早期の効果的治療に活かそうという取組みが普及しております。循環器内科医の出生前診断（胎児心エコー）は妊娠中のお母さんの腹部にエコーをあてて胎児の心臓を映し出す検査で、通常妊娠20週前後から心臓病の診断ができるようになります。診断できる心臓病には軽症から最重症まで様々ですが、現在の技術レベルでも診断できない疾患や、妊娠週数とともに変化するために認識できない病気もあります。心臓病が疑われた妊婦さんには診断率を上げるために複数回検査を行うこともあります。近隣の産科の先生方のご協力のもと、先述の胎児エコー診断をもとに新生児科医、循環器医、麻酔科医を中心としたチームで出生後の治療を効果的に行うために連携を密に治療を行っております。

循環器病棟には心臓外科医3名、循環器内科医7名、看護師44名、看護助手7名、保育士1名のスタッフが勤務し、麻酔科医、臨床工学士と連携をとりながら安全な診療を提供して参ります。

# 外来・救急

看護部 水村こずえ  
みず むら え

外来・救急部門では、看護の専門性を深め、質の高い看護の提供につなげられるよう5人の専門・認定看護師が外来と病棟を連携しながら日々活躍しています。

小児救急看護領域において子どもの生命と人権を守り、また子どもとそのご家族の環境の改善を使命とし活動しています。

救急外来を受診する子どもに対してトリアージを実践し、家族に対して子どもの異常にに対する家庭での対応方法や子どもの事故を未然に防げるよう、事故予防に関するアドバイスをしています。

小児救急看護認定看護師 細井 千晴

子どもが健やかに成長・発達していくように、また、子どもやご家族の権利が保障される看護が提供できるように活動しております。

外来では特に、病気や障がいをもつ子どもの力を伸ばしながら、子どもとご家族が安心して生活を送れるように取り組んでいます。

小児看護専門看護師 近藤 美和子



外来における抗がん剤治療が安全に実施できること、また、子どもとそのご家族が抗がん剤治療を受けながら自宅で生活を送れるためのセルフケア支援をしています。維持療法中の副作用症状のマネジメントや治療後の長期フォローアップにも関わらさせていただいています。

がん化学療法看護認定看護師  
平澤 明子

私は皮膚と排泄ケアを専門にした看護をしています。便の調整が難しい子どもたちが、気持ちよく食べ遊べるように、ご家族がうまくスキンケアができるようにサポートしています。床ずれやキズのケアを体の一部だけでなく生活の様子を伺い、相談しながらサポートしています。

皮膚・排泄ケア認定看護師  
上原 浩子

乳児期から青年期の糖尿病の子どもたちが通院しています。ご家族とともに子どもの発達段階にあわせてセルフケアの獲得への助言、個々の生活に合わせたインスリン治療を子ども自身で取り組むための指導など、糖尿病のご家族と子どもたちへの療育支援をしています。

糖尿病看護認定看護師  
井出 薫

# 栄養部

まえ かわ てつ お  
栄養部 前川哲雄

栄養部門の業務というと、先ず連想されるのは入院患者さんへの給食の提供といったフードサービスでしょうか？栄養部門ではこういったフードサービスはもちろんですが、栄養サポートチームや褥瘡対策委員会への参画などチーム医療に関わっています。また、入院患者さんや通院患者さんを対象にした栄養指導の実施、多職種で行う小児特有の集団外来への参画など、栄養に関わる場面での業務を行っています。

**フードサービス)** 小児病院のフードサービスの特徴として朝昼夕の食事提供の他、離乳食やおやつ、各種ミルク、経腸栄養剤の提供が挙げられます。

病棟への食事配膳は、おやつやミルク、経腸栄養剤を含めると1日に7回にもなります。患者さん個々の栄養管理を積極的に行う上で、業務が細分化していますが、今後も入院される患者さん一人一人への細やかなサービスを向上させていきたいと考えています。

**チーム医療)** 当センターでは平成20年に栄養サポートチーム（以下NST）を立ち上げました。平成25年4月には日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設の認定を取得しました。

NSTは医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・医事担当職員、管理栄養士から構成されています。NSTの活動については第2号でも採り上げて頂いていますが、①入院患者さんの栄養評価、②NST回診（1回／週）、③NSTコンサルテーション（随時）、④NST勉強会（4回／年）です。NST回診では、主治医・担当医からの依頼によりメンバーがそれぞれの専門性を出し合い、必要な栄養量、最適な食形態、栄養補給方法を提案して支援を行っています。また、褥瘡対策委員会に参画し、栄養状態改善からの支援を行っています。

**栄養指導)** 年間で個別栄養指導件数は約900件です。（平成25年度は入院個別167件、外来個別720件）。この他、小児特有の集団外来に参画しています。（DK外来：0、1歳児のダウン症児、PW外来：プラダーウィリー症候群児、すくすく外来：超低出

生体重児、もぐもぐ外来：哺乳・摂食障害のみられる児）

管理栄養士は食や食に関する環境面から関わっています。

**新病院に向けて)** 小児医療センター栄養部は花田栄養部長（副病院長・血液腫瘍科）の下、砂押副部長を筆頭に常勤管理栄養士4名、非常勤管理栄養士3名という体制で業務を行っています。調理業務は専門の業者に委託をしています。2013年9月の電子カルテ導入にあたり、栄養部門では食事内容を大幅に見直しました。

入院されている患者さん一人一人に適切な食事が提供できるよう個別の対応を強化しています。

新病院では更に、効率的で且つ、衛生面にも配慮した厨房設計を進めています。入院されている患者さんを食事で励ませるようなアメニティ面も強化していきたいと考えていますのでご期待頂きたいと思います。



# お知らせ

## 小児医療センター新病院建設工事始まる

去る平成26年2月16日に小児医療センターとさいたま赤十字病院との合同起工式が行われ、新病院建設が始まりました。

この建設工事により、小児医療センターとさいたま赤十字病院がさいたま新都心に一体的に移転・整備されます。新病院では病床数が300床から316床となり、新生児集中治療室（NICU）は倍増、小児集中治療室（PICU）は14床新設します。



さいたま赤十字病院との密接な医療連携を行うことで周産期医療や救命救急医療を充実強化し、子どもから大人まであらゆる世代の方々に高度な医療を提供する安心安全の拠点をつくって参ります。

### 【新病院の概要】

病床数 316床 (NICU: 15床→30床、PICU: 新設14床)

## はじめて当センターを受診される方へ

**当センターは高度、三次医療を担う専門病院のため、紹介制、予約制になっています。**

### 1 受診のための手続きは…

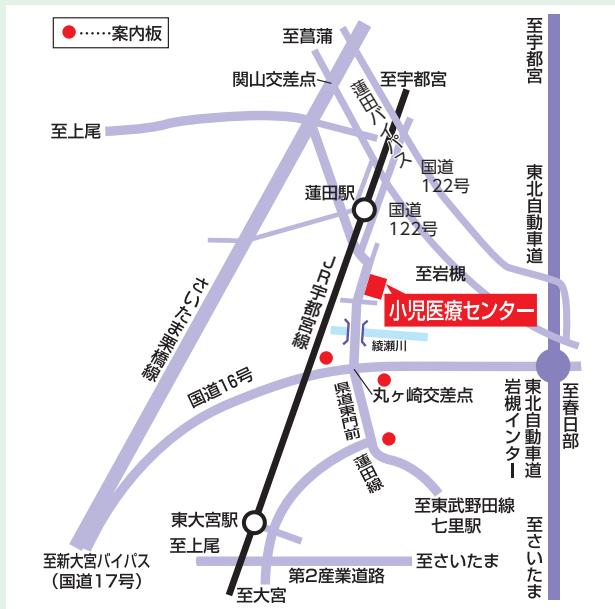
現在のかかりつけ医師に紹介状（診療情報提供書）を書いていただき、☎048-758-1822（一般外来予約専用回線）にお電話下さい。保健発達外来は専用回線 ☎048-758-2165です。

受け付け時間は、平日の 9:00~12:00、13:00~17:00 となります。

なお、緊急を要する際は、紹介元の医師から、当センターの担当医師に直接ご連絡いただくことになります。その際には、☎048-758-1811(代)へお願いします。

### 2 セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンのご相談も受け付けています。患者ご家族様から直接 ☎048-758-1811(代)へご予約をお願いします。



### アクセスについて

#### ◎ 交通機関 の場合 :

JR蓮田駅東口より国際興業バスにて約10分  
料金170円。  
タクシーでは約5分 料金は800円程度。

#### ◎ 自家用車 の場合 :

東北道岩槻ICから、さいたま市（旧大宮）方面へ国道16号で丸ヶ崎交差点を右折し、約500m先右側になります。



埼玉県のマスコット コバトン